

第4回旭市新庁舎建設市民会議 会議録

日時：平成26年9月17日

午後1：30～

場所：本庁舎3階委員会室

出席委員 12名

【会議 開会】

(市長あいさつ)

本日は、第4回目の市民会議になります。前回の会議で委員さん方に評価をお願いしました。H29年度、庁舎竣工を予定している中であまり時間もありませんが市民会議として結論を出していただきたいと思います。合併して10年目に入り、これまで皆さんのお力により一体感のあるまちづくりが進められてきたのではないかと思います。3年半前に大震災がありまして防災・災害に対する庁舎の重要性を改めて認識しています。

また、現在は支所に機能が分散していますので、より一体感を構築するためには新庁舎を建設しワンストップサービスなどの業務ができるようにしていきたいという思いがあります。庁舎も築後50年が経過し耐震性もクリアできない状況ですので皆様方のお力をいただき新庁舎建設に入っていきたい。

これまで事務局の説明や、委員さん方のそれぞれの考え方、市民会議の評価結果やパブリックコメントの結果などを参考にいただき市民会議としての意見をお願いしたいと思います。

(会長あいさつ)

市長のあいさつにありましたとおり順調に進めていきたいと思います。

日本が非常に参考になるのが北欧（フィンランド・ノルウェー）で、市役所の周りで市民が大勢でいろいろなイベントをして、市役所が地域の中心になっている。コンパクトシティーを目指す上で散漫になった公共施設を集約する事が条件となってきます。市民が楽しむという環境、日本の場合は市役所が寂しくて事務的です。ぜひ新しい市民のための庁舎ができたら良いと思います。

事務局：新庁舎建設市民会議設置要綱の規定により、会長を議長とし、議事の進行をお願いする。

議長：議題 1 及び議題 2 について事務局の説明を求める。

事務局：議題 1「新庁舎建設候補地の評価、パブリックコメント結果」の報告を行う。

事務局：議題 2「新庁舎建設位置について」の説明を行う。
⇒新庁舎の建設地については最終的に市で判断する事となりますが、この市民会議の意見も参考にしたいと考えております、この市民会議における方向性（どの候補地がふさわしいか）を本日の会議で見出していきたいので議論をお願いします。

議長：議題 1 に関する質疑及び意見を求める。

委員：決定が市というのはどういう事か。

事務局：市というのは、今後議会に示します市民会議やパブコメの結果などを報告し意見をいただき市長を含め執行部で決定したいという事である。

議長：市民会議と市民の意見（パブコメ）の方向性が近いものになっている。

委員：新庁舎のコンセプト（標準的な案）はあるのか。例えば地方都市として人口の問題から高層は相応しくないし、建物の周辺は人が集まるようになるので景観性を見た時にどの程度の規模になるか、建設する部分の基本はどの程度か。

事務局：庁舎の延べ床面積は 12,000 m²を想定している。これは国等の基準から算出している。敷地の問題だが 1 階でワンストップサービスなどを考えた場合には 1 階部分がかなり広くなる、周辺状況に合わせ高層や低層にする事も考えられる。現段階では敷地面積を 10,000 m²としているが、これは来客者用駐車場や公用車駐車スペースなどを想

定している。これからの基本計画や設計により駐車場を平屋ではなく立体にするのはどうかというような協議を沢山していく。

事務局：職員数については 388 名を将来的に想定している。建設場所の決定後に建物の大きさや形を検討する。

委員：新庁舎は何年使用するものを考えているのか。

事務局：おおむね 50 年程度を考えている。

委員：この先 50 年の間でまた大きな災害が絶対に無いとはいえない。その時は私も何処に逃げて良いのか解らなかった。防災の拠点を念頭に置くのであれば屋上にヘリポートがあって救助にあたれるといった事を視野に入れてもらいたい。防災に対して市民は意識が高いので使い勝手も大事だがそういう所を配慮願いたい。
補助金について回答があったが、補助金を返納してもここに建てる事が一番である理由を整理して公に批判が出ないように進めてもらいたい。

事務局：委員さんは市民がせっかくもらった補助金を返すという事を心配されています。5 つの候補地を選定するにあたり補助金の返納、土地の取得（全員の地権者の同意）などがあります。消防本部隣接地の用地取得は相手がありますので未知です。そういう所を総合的に判断していった場合に補助金の返納がある事は市民に説明をしていきたい。

議長：従来の戦後の日本の箱物作りから旭市らしい風土を持った柔軟性がある多機能の庁舎で、あらゆる人達が関わってくる場所でシンボル性・ランドマークがある。柔軟性がある平面的な低層で森の中に住むようなものが理想になってくるかもしれない。庁舎の方向性は単なる箱物では無く、旭市の風景を含めて今後の大きなテーマになってくる。参考にするべきものは世界にあるが反対に旭市が参考になる可能性もある。それが市民会議の役割でもあるし市の役目でもある。そして共通の考えが議会や市民から出てくれば最良である。
旭市も豊かで様々なものがある。もちろん欠点もある。今までの会議の中で委員さん方には知的にものを考えていただいている。新しい考

え方は 50 年後を予測したものであると良い。そこは次の計画の段階の議論になってくると思いますが。

事務局：防災面の意見が出ました。現在、国土強靱化計画を単独で市が作成する事になっております。現在の庁舎は防災的に非常に弱いので新庁舎は防災に力を入れた庁舎にしたいと思っております、国土強靱化計画における国の支援などが今後見えてくると思いますので、良いチャンスであると思う。

議長：防災となると柔と剛だと「剛」になる。何年か前に災害で北海道の集落が大きな被害を受けました。その時に国が「剛」の防波堤を築きましたが要塞のようなものであったため結果的に住みにくくなってしまって人口が減ってしまった。そういう防災では無く違った防災の考え方ができたら良かったと思う。

委員：文化の杜公園にある防災機能について説明してもらいたい。

事務局：防災公園とまではならないが、防災機能をかなり持たせた公園である。芝生の広場のインターロッキングが敷いてある所はヘリポートとして使用できるよう位置づけ、テニスコートの脇の三角地はトラックが来て荷さばきができる。サッカーで使用している所は最悪の事態には避難住宅を建設できるように考えている。また非常用トイレの設置もできるようになっている。つまりこの公園は防災面でかなり強い公園と言える。

地震に対しての建物の防災面は、免震や制震、耐震で十分対応できると思われる。公園の中には庁舎が建てられないので区域の一部除外が必要となる。仮に庁舎がここに建設された場合は、お互いにより強い絆を持った防災拠点になると感じています。

委員：最近、入札不調が相次いでいる。資材費が高騰し習志野市の新庁舎の場合は当初 76 億を見込んでいたが、後に 36 億ぐらいの予算不足となっている。どこの新聞を見ても入札不調で賑わしているので場所が決まって建設に入る時に、こういう事がないよう設計は慎重に慎重を重ねて進めてもらいたい。

事務局：習志野市は当初計画で 76 億 1 千万円を想定していた、しかし設計時は 110 億円となっている。この内訳は価格上昇分もあるが庁舎面積を増やしたり、計画のときに無かったエスカレータを増やしたりした機能アップの費用も入っての金額である。旭市の庁舎もこれから決めていく計画でどれだけ良い物を安くつくれるか基本中の基本ですので委員さんから話があった事はしっかり考慮して進めていきたい。

議長：「剛」と「柔」の使い分けで、建物には鉄筋の部分、鉄骨の部分があったり、木造の部分があったりと使い分ける事によって将来的に柔軟性のあるものができるのではと思っている。震災を見て意外に剛のものはダメであった。

議長：各委員より意見をいただきたい。(順に指名)

委員：(旭文化の杜は)賑やかで人が集まる所でとても良い。庁舎が建てば周りでイベントなどが行えて良い。防災拠点としてうまく説明していけば有利な補助金をもらえるのではないかな。

事務局：先ほど国土強靱化の説明をさせていただきましたが、現段階ではありません。今後は模索しながら進めていきたい。

委員：旭文化の杜であれば幅広く庁舎を考えられる。

委員：結論としてはゲートエリア付近が一番良い。参考に公園の面積と庁舎の使用面積を教えてください。また消防署隣接地が候補地となった理由、さらに候補地とする上で用地を取得できる見込みはあったのか。

事務局：消防署などが隣接し中央病院やアクセス道の整備など勘案し選定した経緯がある。なお北側地権者には話しをしていない。
公園の大きさは約 7 ha ある。庁舎敷地が 10,000 m²で、だいたい 7 分の 1 を庁舎で想定している。
平成 26 年 3 月に策定した基本構想の中でも各候補地の選定理由について記載があります。

— 休憩を挟む（２：４３～２：５０） —

委員：私も会社で補助金を使用した経験から国や県も補助金返納についてきちんとした理由を説明すれば許可が下りるのでないか。

震災が千葉県沖で起きた場合、万が一を想定し屋上に避難出来る広場があり、日常はイベントなどに使えるなど多機能な庁舎、柔軟性を持った庁舎に税金を使ってもらえれば市民も納得するのではないか。

これからの高齢化社会を考えてコミュニティーバスのルートについても配慮してもらいたい。いろいろな年齢層の方が訪れやすい庁舎にしてもらうのと防災面でも強く柔軟性のある庁舎を望む。

委員：Ｂ－１案とＢ－２の違いは。

事務局：国の補助金を使っているかいないかの違いである。Ｂ－２は土地の取得が考えられる。

委員：建設位置の事から少し離れますが庁舎が完成してから市民より意見が出る事がある。つまりパブコメなどもっと周知が必要だったのではないかなど。ホームページなどで庁舎建設位置について途中経過など周知してはどうか。いろいろ市で考えて頑張っている姿や市の長期計画をもっと市民に知らせてもらいたい。
議会などで庁舎建設位置の決定を報告する時には良い理由をきちんと説明してもらいたい。

委員：庁舎建設費が想定を大きく膨らまないように工夫して進めてもらいたい。

委員：建設場所については利便性など考えればＢ－１案が良いと思う。補助金の返納、駐車場の問題を上手に行っていただきたい。
庁舎は次の世代に残る立派なものを、とは言え華美なものではなく少ない予算の中で市民に共感してもらえるような良い物をお願いしたい。

委員：どこかで一步踏み出していただいて前に進んでもらいたい。県の文化会館、図書館が傍にある庁舎は県内に無いのではないかな。そういう事から文化都市旭市として盛り上がると感じている。
教育委員会が現在海上支所にあるのは不便である、やはり本庁舎の中にあるべき、ぜひ新庁舎建設でひとつにしてもらいたい。

委員：市民会議でまとめた材料は相当尊重されると理解して良いか。消防隣接地も障害があるが議会などで意見があれば場合によっては可能となるのか。

事務局：市民会議でも 100%同じ意見にはならないが方向性は出していきたい。市もその意見を尊重しながら判断していくことになる。

議長：この市民会議とパブリックコメントの結果でまとめてよろしいか。賛成の方の拍手を求める。(全員賛成) この委員会は庁舎建設まで継続してもらえるのか。

事務局：はい。

本日までの議論の内容を市民会議の意見書で提出するため、まとめさせていただきます。

今後建設場所が決定した後も、庁舎の計画・設計の策定段階で皆さんの意見を伺って進めていきたい。

議長：本日の会議を終了する。

説得では説得された方は心の中で悔しい事がある。それを納得してもらえるように、人間は気持ちの動物ですから議会等でも納得してもらえるような説明をお願いしたい。

【会議 閉会】 15：30 終了